【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成24年8月30日(2012.8.30)

【公表番号】特表2012-505068(P2012-505068A)
【公表日】平成24年3月1日(2012.3.1)
【年通号数】公開・登録公報2012-009
【出願番号】特願2011-532183(P2011-532183)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｆ　2/44　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｆ　2/44

【手続補正書】
【提出日】平成24年7月11日(2012.7.11)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
患者の隣接する椎体の間にインプラントを導入するためのアッセンブリにおいて、
支持部本体及びその中で回転インサートを有するインプラントであって、
前記支持部本体は、近位端部分から遠位端部分まで横方向に伸張する曲線形状を有し、隣接する椎体の間で経椎間孔法で導入するような構成及び寸法にされており、前記遠位端部分は遠位最端部に向かって狭くなっている先細部を有しており、
前記支持部本体は、その中を長手方向に伸張している第１の長手方向開口部を画定しており、導入後に前記インプラントが排出されることの予防を支援するために、複数の突出部が上部及び下部端面に沿って設けられていて、
前記支持部本体は、その中で回転する前記インサートを収容するために近位端部に隣接する第２の長手方向開口部を画定しており、前記インサートは、円筒形状であり、前記支持部本体を前記インサート及び前記中心長手方向軸を中心に回転させることができるように前記第２の長手方向開口部の中で中心長手方向軸を中心に回転することができる、インプラントと、
前記支持部本体の前記近位端部分に取り外し可能に連結され、前記インサートと前記支持部本体との間の回転を選択的に可能にするために前記回転インサートと係合することができる導入器具であって、前記導入器具は、長手方向工具軸に沿って伸張しており、前記導入器具が第１の位置にある時、前記インサートは前記支持部本体に対して回転に関して固定され、前記導入器具が第２の位置にある時、前記支持部本体は、前記インサートに対して回転され得る、導入器具と、を備えているアッセンブリ。
【請求項２】
前記導入器具が前記第１の位置にある時、前記導入器具のスリーブは、前記支持部本体の前記近位部分の中に形成されたスロットと係合し、前記支持部本体は、前記支持部本体に堅固に連結される、請求項１に記載のアッセンブリ。
【請求項３】
前記インサートは、前記導入器具と係合するために前記中心長手方向軸を横断するねじ穴を画定している、請求項１に記載のアッセンブリ。
【請求項４】
前記穴と一直線上に合わせられた、前記インサートの上面に位置合わせ部材を更に備え

ている、請求項３に記載のアッセンブリ。
【請求項５】
円周リブが、前記インサート上に設けられており、対応した形状の窪みが、前記支持部本体上に設けられており、前記インサートは、前記インサートが中に挿入される時、前記支持部本体の前記第２の長手方向開口部の中で捕捉される、請求項１に記載のアッセンブリ。
【請求項６】
前記近位端部分は、丸みを帯びた形状を有しており、導入器具と係合するために前記インプラントの側面に１つ又はそれ以上の溝を含んでいて、前記溝は、挿入工具の一部分を前記回転インサートと係合することを許容するように前記第２の長手方向開口部とつながっている、請求項１に記載のアッセンブリ。
【請求項７】
前記導入器具は、前記回転インサートと螺合するためにねじ切り先端部分を有する中心シャフトを含んでいる、前記請求項１に記載のアッセンブリ。
【請求項８】
前記導入器具は、前記支持部本体と係合するような構成及び寸法にされているインプラント安定器及び前記回転インサートと係合するような構成及び寸法にされている挿入安定器を備えており、前記中心シャフトは、前記インプラント及び挿入安定器の中を通って伸張している、請求項７に記載のアッセンブリ。
【請求項９】
前記インプラント安定器は、近位端部から遠位端部まで伸張する概ね円筒形状を有しており、前記遠位端部は、間隔を空けてそこから遠位方向に伸張する一対のトングを有する股状の自由端部を備えており、前記トングは、前記トングに対して前記インプラントを安定化させる及び前記長手方向工具軸に対する前記支持部本体の回転を防止するために前記インプラントの前記１つ又はそれ以上の溝と係合するような構成及び寸法にされている、請求項８に記載のアッセンブリ。